

2019年10月3日

PMAJ SIG 推進部会長殿

SIG 新設提案書

小原 由紀夫

1. 新設提案 SIG 名
「組織アジリティ」

2. 提案者(発起人)
小原 由紀夫 (富士通株式会社)

【メンバ公募中】

3. 活動の目的

ビジネス環境の変化は激しくなっている。システムは、業務のインフラであり、意思決定の基盤であるため、この変化に対応することが求められている。例えば、以下のような面である。

- スピード：リリースまでの期間を年単位から3ヶ月単位への短縮
- リスク：曖昧性を脅威とした回避から好機とした活用
- 品質：当たり前品質から無くても不満ではないがあると満足が大きい魅力品質
- 戦略：長期的予算確保から頻度を高めた投資判断による戦略実現
- 体制：完成を定義した多重請負体制から完成定義が未完な状態での共創体制

これに応えるため、「アジャイル開発」が適用されている。グローバルにおけるプロジェクトマネジャーの調査では7割以上の組織が「アジャイル開発」を適用できる状態になっている。また、「アジャイル開発」の体制も9名までの単独チームの適用から、SAFe(Scaled Agile Framework)などにより大規模への適用に広まっている。PMBOK®第6版では、アジャイルのプラクティスが多数採用され、アジャイル実務ガイドがセットされている。

一方、デジタルトランスフォーメーション(DX)に向け、経済産業省が提言する「2025年の崖」があり、「アジャイル開発」からITを高度に利活用したサービス・イノベーションの実現が必要となる。このため、単にIT部門だけでなく、組織としての俊敏性(アジリティ)を高めることが求められる。「アジャイル開発」とプロジェクトマネジメントの蓄積されたノウハウを活用し、組織アジリティを向上させることを通じて、GDP底上げに貢献することを目指す。

3. 活動内容（案）

IT 企業、ユーザー企業所属の PMAJ 会員有志が集い、次のような活動を行う。

第1段階 現状把握

SIG 活動のインセプションデッキを作成する。

ビジネス環境と「アジャイル開発」に対する認識の現状を現場と組織レベルについて把握する。

- 「アジャイル開発」に関する誤解
- 既存の組織プロセスに関する「アジャイル開発」チームの不安と課題
- ビジネス環境の変化の影響

第2段階 「アジャイル開発」導入期

組織として、最初の「アジャイル開発」チームを導入するためのアプローチと組織としての支援について研究する。

- 組織からのプロジェクト（予算）承認
- チーム立ち上げ
- リリース計画
- ステークホルダーマネジメント
- レビューと振り返り、フィードバック

第3段階 大規模化（スケール）

組織として、「アジャイル開発」チームを増やしていく場合、また、複数チームによる「アジャイル開発」を導入する場合の組織としての活動について研究する。

- リーダー育成
- 組織プロセスの対応
- チーム立ち上げ、価値マネジメント
- リリース計画と同期（ハイブリッド）
- ステークホルダーマネジメント
- アーキテクチャーマネジメント
- レビューと振り返り、フィードバック、ビジネス評価

第4段階 組織アジリティ

組織として、組織アジリティを向上させるための活動を研究する。

- ビジネス環境と戦略、価値
- 投資と期待効果とその測定
- システム環境の変革
- 変化対応と品質保証
- 人材育成と人事制度
- 調達と契約
- P2M の適用

4. 活動成果の PMAJ へのフィードバック

次のような方式を考える。

- ① 活動状況、中間成果短針などの PMAJ ジャーナル、オンラインジャーナルへの発信
- ② 同じく、例会での発表
- ③ ある程度まとまった活動成果の年次 PM シンポジウムでの発表
- ④ 段階ごとの活動報告書の作成

5. 活動期間

まず、2 年程度を考える。

6. メンバーの募集方法と運営ポリシー

(1) メンバー募集方法

- ・ PMAJ HP を通じての公募と SIG メンバーとなった方の紹介
- ・ メンバーは基本的に、IT ベンダー所属の方で、次の条件を満たす方
 - 上記活動内容のどれかにインプットを提供できる方
 - 活動の記録を文書化するなど、SIG の運営に貢献できる方

(2) 運営ポリシー

- ・ SIG 会合は月 1 回、発起人が合意した夜の時間帯に開催とし、中間の意見交換などは e-Mail または PMAJ のグループウェアを使用して行う。会合は PMAJ 並びに SIG メンバーで会議室を提供できる企業を巡回して行う。
- ・ 運営はメンバー間の Give & Take 原則に基づく。
- ・ 情報交換に当たっては、企業機密保護の原則に抵触しないよう留意する。
- ・ 折に触れて SIG 外の知見のある方を招いて創発セミナー・ワークショップを開催する。

7. PMAJ にとってのメリット

- PMAJ 会員の過半数を占める IT 業界の会員が集って、「アジャイル開発」における PM の関心事について掘り下げた研究活動を行うことで、PMAJ への求心力を高める。
- このような SIG の存在により PMAJ の会員獲得への PR 効果が期待でき、また産業界への PMAJ のアピールとなる。

8. 予算措置

別途検討

以 上

「PMBOK」は、Project Management Institute, Inc.(PMI)の登録商標です。